

昭和參拾五年九月

築土神社御鎮座壱千貳拾年沿革誌

東京都千代田区九段壱丁目拾四番地

築土神社々務所

電話(331)三三六五番

築土神社略記

一、御祭神

天津彦火能邇々杵尊あまつ ひこほの ににぎのほこと

謹みて神代の文を按ずるに邇々杵尊は天照皇大御神の神孫に当り天忍穗耳尊の皇子に坐しまして日向國高千穗峯に降臨給ひ御神勅の随に瑞穂國（我が日本國の古名）を肇めさせ人民を統治し給ひし大神なり

二、御鎮座地

東京都千代田区九段荅丁目拾四番地（九段中坂）

即ち田安郷の里にして今の九段中坂に昭和貳拾九年八月住吉造りの社殿を新築表の大鳥居には築土神社の篇額を掲ぐ（渡辺善三郎氏奉納）境内には地元の神として鎮火招福に尊崇篤き世継稻荷神社を始めて學術工芸其の他に縁深き木津川天満宮並に財宝招福の大鳥神社を奉齊せり。表門の石獅子には安永九庚子十一月元飯田町総氏子中奉納善龍山成就院性真代安永庚子冬十有一月勝敏書市ヶ谷田町三丁目石工平十郎の銘あり又石燈籠には天保十一庚子年五月吉日元飯田町産南品川三丁目願主讀岐屋友吉、川島庄兵衛、善龍山成就院第十一世法印大僧都実順代の銘あり。

三、氏子区域

氏子区域としては九段一、二丁目、飯田町一、二丁目、富士見町一、二、三丁目、竹平町、代官町、三番町の一部それに新宿区牛込船河原町の総氏神として尊崇を仰ぐ

四、御由緒

つらく、当神社の創立を按ずるに今を去る事壹千貳拾年の昔即ち天慶三年庚子六月江戸城内の武藏國豊島郡上平川村に創祀せられ津久戸明神と称したのが始めて降って文明十年戌戌太田道灌卿が当社を殊の外尊崇し同年六月社殿を造営し江戸城の鎮守又は太田家の守護神として祭祀を篤くせられたり。

越えて徳川家康公の江戸城に移るに及び城郭の改修に伴ひ天正七年己卯二の丸普請の工を起すや当社其の郭内に入るの故を以て田安郷に替地を賜ひ遷座せらる、此の地は當時に於ける田安門外より飯田町一円の称にして社地は即ち飯田町一丁目（現在の九段一丁目）附近より牛込御門内（現在の富士見町二三丁目）に至る極めて広き境内を有したり。當時は其の地名を冠して田安明神と称し或は江戸明神とも称し山王（現在の日枝神社）神田（現在の神田明神）と共に江戸三社の一つとして庶民尊崇の的となれり

然るに元和二年丙辰御水尾帝の御宇外濠普請の起工せらるるや更に牛込区築土八幡町に遷座するの止むなきに至れり、其の時津久戸明神を改めて築土明神と改称明治七年更に改めて築土神社と称せり。かくて牛込築土八幡町に鎮座する事実三百式拾八年の長きに及べり。然るに昭和貳拾年四月大東亞戦争の災に遭ひ社殿其の他悉く烏有に期す依って翌くる昭和貳拾壹年九月再び氏子区域内（戦前は神社は牛込区にあり氏子は麴町区にあり）の麴町区富士見町に遷座更に昭和貳拾九年九月現在の九段一丁目中坂に遷座今日に及べり

五、年中行事

一月一日	歳旦祭	一月十五日	恒例中祭	二月三日	節分祭	二月午ノ日	初午祭	四月
十一日	世継稻荷神社大祭	四月二十九日	天皇誕生日	五月十五日	恒例中祭	六月三十日		
大祓式	八月二十五日	天満宮、大鳥神社大祭	九月十五日	例大祭	十月十一日	世継稻荷鎮		
火祭	十一月十五日	七五三詣祭	十一月二十三日	新嘗祭	十二月三十一日	大祓式及除夜祭		

築土神社沿革誌

○天慶三年庚子

（紀元二六〇〇年）六月武藏国上平川村（江戸城内）に神祠を創建津久戸明神と称す

○文明十年戊戌

(紀元三三六年) 六月五日太田道灌江戸城の鎮守として宮社を造立せらる

○天文九年

(紀元三三〇年) 十一月二十六日比叡山座主より別当職に善龍山楞嚴寺勅宣を以って補任せらる

○天和七年己卯

(紀元三三元年) 平川二ノ丸城御普請に付田安郷字モチノ木坂(今の中坂近く)即ち田安に替地を賜ひて遷座田安大明神と称す

○天正十七年

(紀元三三四年) 外濠拡張に伴ひ再び下田安米倉屋敷跡(今の牛込見附)に遷座す

○元和元年乙卯

(紀元三三五年) 二月総御濠御普請に付き社地御用地に召上げらる。依って牛込に替地を賜ふ(今の新宿区筑土八幡町)

○元和二年丙辰

(紀元三三六年) 御水尾天皇の御宇牛込区筑土八幡町に遷座し津久戸明神を築土明神と改称す

○寛永十一年

(紀元三三四年) 四月十七日別当の記せし要用雜記に幕府との關係を録して『山王、津久戸神田は江戸三社と申候山王、津久戸は御城内御氏神に付大御台様御繁昌の時分は御公達様方へ正、五、九月の御札、御守春日殿御取次を以って差上申候今も怠らず津久戸明神神前に於て御上様御祈禱仕る。春日殿御札、御守正、五、九月年々上申候事』とあり右に云ふ春日殿は「春日局」の事なるべし

○承応三年

(紀元三三四年) 二月二ノ丸にありし東照宮の古宮を拝領し宮社を造立、其の遷宮に際しては東叡山輪王寺宮の御名代として円覚院を御招待申す

○明暦三年

(紀元三三七年) 幕府より銅瓦三千貫目、唐金水溜四個、金燈籠四個、鋪石大小二間余を賜る

○享保六年

(紀元一三八二年) 三月牛込弘方町より出火の際本社悉く類焼し宝物、社宝其他全部焼失せり

○享保十五年庚戌

(紀元一三〇八年) 八月十一日社殿新築造営成る(棟札現存)

○宝暦十一年辛己

(紀元一三三二年) 七月より本社修復取かかり三月晦日午、出来本地堂、石坂再建四月十四日

竣工四月十五日遷宮式

○天保四年庚己

(紀元一四三三年) 十一月五日本社修復取掛り十一月十五日竣工す(棟札現存)

○明治七年

(紀元一五三三年) 築土明神を改めて築土神社と称す

○明治十三年

(紀元一五三九年) 二月、二品熾仁親王御親筆の額「築土神社」二面を奉納せらる

○明治四十年

(紀元一五三四年) 九月十五日幣帛供進神社に指定せらる

○昭和二十年

(紀元二六〇四年) 四月十四日午前二時大東亜戦争の災に遭ひ社殿其他悉く烏有に期す

○昭和二十年

(紀元二六〇四年) 十一月二十四日東京都麴町区議会に於て区有地の一部(麴町区富士見町一

丁目十八番地)を築土神社社殿建設敷地として無償、貸与を議決せらる。同年十二月五日地鎮祭を執行せり

○昭和二十一年

(紀元二六〇五年) 七月二十日仮社殿及社務所建築の工を起し翌八月二十日竣工せり(施工田

中土建工業株式会社) 同年九月十三日夜牛込区筑土八幡町より麴町区富士見町一丁目十八番地の新社殿に遷座翌十四日奉祝祭翌十五日終戦後最初の例大祭を斉行せり

○昭和二十七年

(紀元二六六三年) 五月九段中坂の世継稻荷神社の境内地拡張の為六十余坪を買収せり

○昭和二十八年

(紀元二六六三年) 四月九段中坂の世継稻荷神社境内に再遷座を企図し築土神社御造営奉賛會

を設立会長に原安三郎殿を推戴同月十一日地鎮祭を執行の上本建築の工を起す(設計監督小林謙一氏、山田猷氏、施工株式会社室橋組)

○昭和二十九年（紀元二六四年）四月社務所建築の工を起し同月二十三日地鎮祭執行七月十七日竣工せり

○昭和二十九年（紀元二六四年）八月新社殿竣工翌月九月十二日千代田区富士見町一丁目十八番地より同区

九段一丁目十四番地の新社殿に遷座翌十三日落成奉祝祭九月十五日例大祭を斉行せり

○昭和三十一年（紀元二六六年）十二月五日大鳥居建立の為地鎮祭執行翌三十二年式月一日竣工せり（設計

監督片山建築事務所、施行京和建設工業株式会社）

○昭和三十四年（紀元二六九年）昭和三十五年は御鎮座壹千式拾年を迎へるのでこれが記念事業を企図し拝

殿の庇新築神楽殿の新築を始め幣殿の一部改修並に崖地の改修工事を為すため記念事業会を設く

○昭和三十五年（紀元二七〇年）四月四日の吉日を朴し神楽殿新築の地鎮祭を執行せり（施工株式会社室橋

組）同月中旬より工を起し九月八日竣工落成奉告祭を執行九月十四日連合神輿渡御九月十五日御鎮座壹千式拾年祭を斉行せり

昭和參拾五年九月 御鎮座壹千式拾年祭に当りて

築土神社 宮司 多 湖 円 謹記

附記 この印刷製本はすべて株式会社文弘社（社長堀鉄判殿）の御奉納になるものです茲に厚く御礼を申上ぐると共

に株式会社文弘社の弥益々に御繁栄せられる事を御祈り申し上げます